

井内先生の思い出

時 村 童 子

時の経つのは早いもので、卒業からもう7年、井内先生のご退官と伺って、感慨深いものがございます。思えば、桜の中を入学してまもなく受講した地理学概説は井内先生のご担当で、卒論も井内ゼミだった私は、先生にはまるまる4年間お世話になったことになります。

井内先生は、柔らかな物腰、さりげないおしゃれのセンス、ロマンスグレーの髪と、まことにダンディという形容詞がぴったりで、私たちの学年にも熱烈なファンがいました。「知り合い結婚」と称される奥様や、3人のお嬢様のお話をされる時など、窓の方を見ながら照れくさそうになさるのが常でした。そんな先生からはご家庭でのお姿がしのばれ、私たち学生は、先生はまさに理想的な家庭人・父親像であると認識しておりました。

先生は、ご担当の外国地誌や都市地理の時間に、よくスライドをお使いになりました。それは授業を受けるというよりも、まるで映画の一コマを見ているかのようで、当時まだ海外へは行ったことがなかった私は、見知らぬ国々の色とりどりの写真をみてはため息をついたものです。先生はシカゴやロンドンに留学されていたご経験から、学者としてばかりでなく、生活者としての視点からも、日本との違い等いろいろなお話を下さり、それを聞くのも毎回の楽しみでした。

外国の都市システムについての原書講読の時間には、当てられた学生は、その国に行ったこともないのに、街の隅々まで知っているかのように説明しなければなりません。英文和訳とあいまって準備はなかなか大変でしたが、それ以上におもしろい授業だったことを覚えています。学ぶというよりも、世界を旅して歩いているようでした。

そんな影響でしょうか、私も卒業旅行以来いろいろな都市を訪ねましたが、いつも大量のフィルムを持ち歩き、「この景色はあのときに見た」「こんなことも書いてあった」などと思い出しは、気のすむまで歩き回るようになりました。観光地ばかりでなく、普通の人は目もくれないようなと

ころにも足を向け、まるで一人巡検のようなことをしてしまいます。日頃忙しさにかまけ、先生をはじめ地理学教室には不義理ばかりしておりますが、こんなところにも4年間培ったものがあらわれていて、先生の影響の大きさに改めて驚いております。

卒論のゼミは、アットホームな雰囲気でした。先生は昔東京都庁にいらしたこともあって、行政にはお詳しく、副都心機能や再開発をテーマとする私たちは貴重なご助言を多くいただきました。いつもは優しい先生も、論旨の展開などには大変厳しくていらっしゃいました。ゼミ生は先生からの質問に、どのように答えようかと頭を悩ませたものです。でも、それが過ぎればまたいつもの優しい先生に戻られ、卒論ばかりでなく就職活動も抱えて悩んでいる私たちをずいぶん励ましてくださいました。

中でも一番の思い出はなんといってもドライブ巡検です。ある日、先生は、私たちの卒論がなかなか進まないのをご覧になってか、フィールドの1つである東京湾岸～横浜へのご案内下さいました。先生の愛車グリーンのフォルクスワーゲン・ゴルフは、一見小振りながら、中は後ろに3人乗ってもゆったりの広さで乗り心地も良く、ゼミ生一同、卒論のことはすっかりどこへやら、湾岸ドライブを楽しませていただきました。もちろん目的は役所の方から開発に関する説明をしていただくことにあつたのですが、海を眺めながらご家族のお話を伺ったり、横浜の中華街でお茶をしたりと、楽しかったことばかりが真っ先に浮かんできてしまいます。開発や都市機能のことよりも、先生ご自身のことについて質問する私たちに、先生は終始にこやかにお答えになられました。先生のさらなる新たな一面を見せていただいた貴重な1日でもありました。

先生、どうぞいつまでもお元気で、新たなるスタートに寄せて、ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

(34回生)